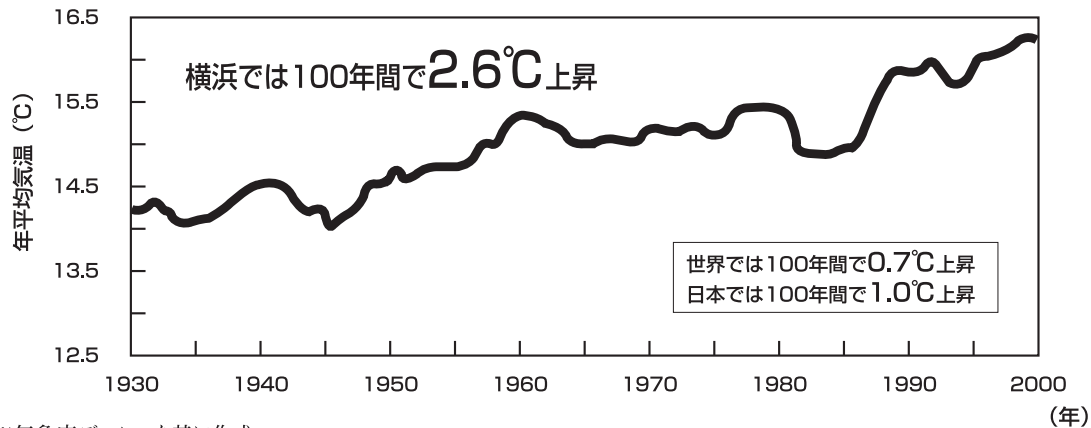


地球温暖化などの環境問題が注目されている中、横浜市は全国に先駆けて環境モデル都市に指定されました。神奈川区では区民の皆様と一緒に様々な環境対策に取り組んでいきます。そこで、今回の特集では環境に関するデータから、地球温暖化問題等の現状を紹介します。

横浜における年平均気温の変化



※気象庁データを基に作成

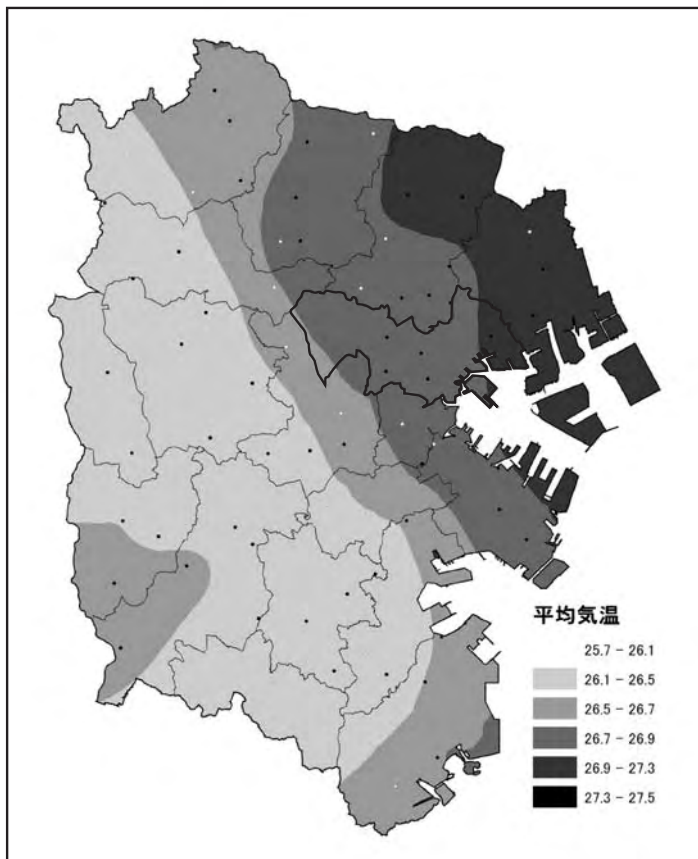
備考1 日本の平均気温は、都市化の影響が少ない17地点のデータから算出(気象庁)

備考2 横浜の平均気温は、現在の観測所(山手町)で測定を開始した1928年~2000年までのデータを用い、100年間の気温上昇量は、そのデータから回帰直線を求め算出

[資料:横浜市地球温暖化対策事業本部]

平成20年夏のヒートアイランド観測結果

○横浜市平均気温分布図



横浜市環境科学研究所では、ヒートアイランドの実態を把握するため市内69か所、神奈川区では5か所の小学校において7~8月に気温の観測を行っています。観測結果から、市の中心部と北東部で高温になるヒートアイランド現象が見られました。

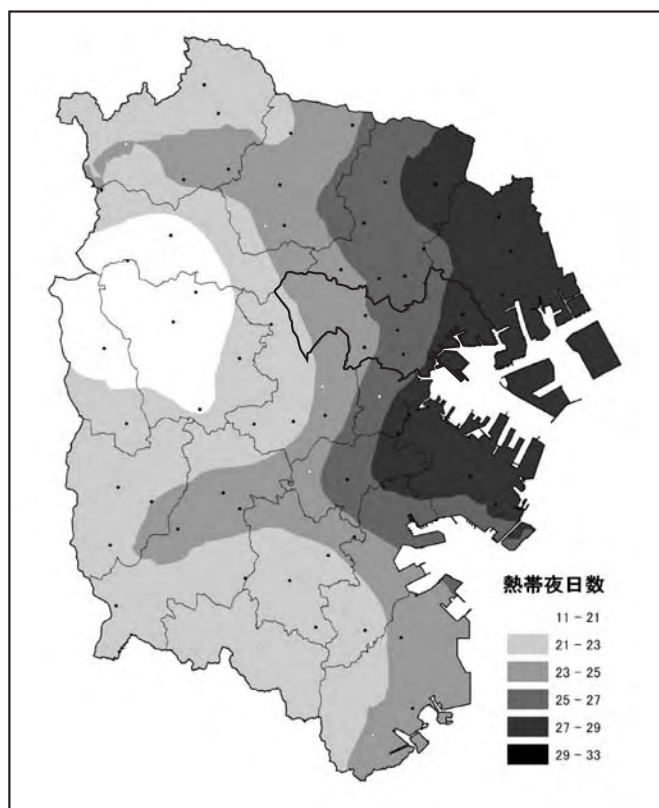
○ヒートアイランド現象とは

一般的に都市の中心部の気温が郊外に比べて島状に高くなる現象で、建物や舗装の増加による熱の蓄積と放射、ビルや車などの人工排熱、冷却効果を持つ緑地・水面の減少などが原因とされています。夏季などの短時間に降る局地的な豪雨にも影響を及ぼしている可能性があると考えられています。

特集 温暖化とヒートアイランド

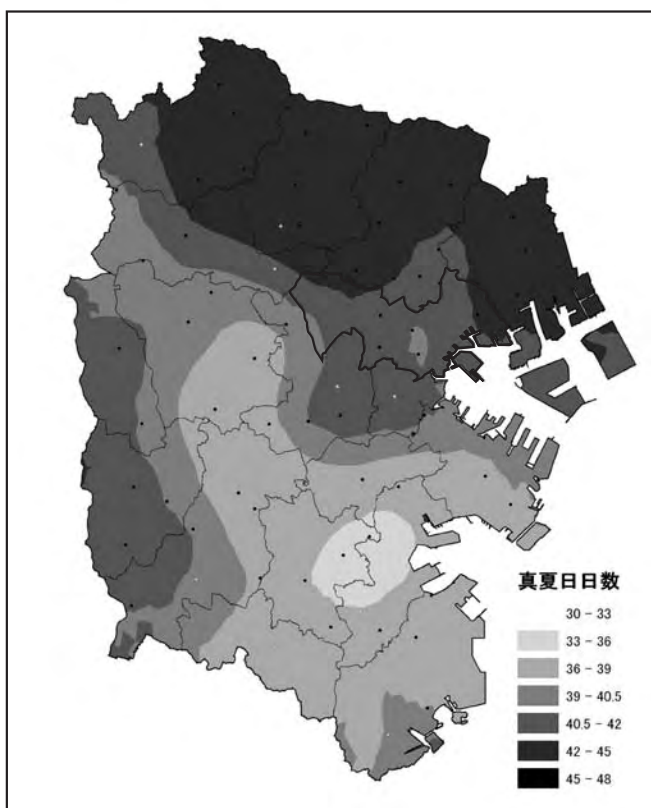
○熱帯夜日数分布図

(熱帯夜とは最低気温が25℃以上の夜)



○真夏日日数分布図

(真夏日とは最高気温が30℃以上の日)



[資料:横浜市環境科学研究所]

○神奈川区の観測結果(平成20年7～8月)

5か所の小学校(青木、神大寺、三ツ沢、子安、斎藤分)で観測を行いました。神奈川区は市内の中でも平均気温や最高気温が高く、中でも神大寺小学校では最高気温36.2℃を観測しました。また、熱帯夜日数も臨海部を中心に多く、子安小学校で32日を観測しました。



資料:横浜市環境科学研究所

横浜市では平成19年4月から風力発電事業を神奈川区鈴繁町に設置されているハマウイング(横浜市風力発電所)で開始しています。平成19年度には約233万kWの発電量があり、この発電量は一般家庭の消費電力に換算すると約670世帯の年間使用電力に相当します。また、発電事業と共に環境行動都市横浜のシンボルとしての役割を担っていきます。

○平成19年度 月別の平均風速と発電量

月	平均風速 (m/s)	発電電力量(kWh)
4	6	29万
5	5.5	25万
6	4.9	16万
7	4.3	12万
8	5	19万
9	5.9	21万
10	4.9	15万
11	4.6	13万
12	5.2	15万
1	5	20万
2	5.7	25万
3	5.4	23万
計	平均 5.2	233万

○ハマウイングの概要

- ・所在地
瑞穂ふ頭(神奈川区鈴繁町)
- ・大きさ
高さ 118m
羽の直径 80m
(参考:コスモクロック21 112.5m)
- ・ライトアップについて
日没から午後10時まで、風向により照明の色が変化します。

[資料:横浜市地球温暖化対策事業本部]

横浜では冬から春にかけて風の強い日が多く、発電量も多くなる傾向にあります。

○普及啓発状況(見学ツアー等)

ハマウイングは大変な注目を浴びており、横浜市民をはじめ、他都市や海外の関係者など幅広い分野の方々に見学していただいております。また、市民見学会や市内の環境と関わりのある施設(神奈川区:日産横浜工場など)と一緒に見学するエコハマツアー等を開催しております。平成19年度の見学者数は2,361名でした。

イベント名称	回数	人
エコハマツアー	6	222
市民見学会	14	632
その他	48	1,507
計	68	2,361

○神奈川区役所主催の環境イベント

神奈川区では、横浜市脱温暖化行動方針(CO-DO30)に沿って、多くの環境に関するイベントを開催し、区民の皆様と一緒に地球温暖化問題に取り組んでいきます。

平成21年に開催が予定される主な環境イベント

4月29日	第2回かながわ湊フェスタ	(神奈川 水再生センター)	(問い合わせ)
	第4回よこはま水と緑の日		地域振興課
10月11日	区民まつり	(反町公園)	地域振興課
4回開催予定	省エネ・エコライフ教室 (エコドライブ、エコッキング)		区政推進課